

令和6年度 全国小学校国語教育研究会 第1回理事会報告

日時：令和6年6月15日（土）15時～

会場：日本出版クラブ

開会に先立ち、逝去された顧問への黙とうが捧げられた。

司会進行は、事務局長の田中順子氏。会長あいさつで佐伯孝司氏は、昨年度実施された広島大会の成果に触れつつ感謝の意を示し、今年度開催予定の山口大会の成功を祈願した。

次に顧問代表挨拶では、榊原良子名誉顧問のメッセージを長沼正城副会長が読み上げた。

その中で、故石野日出夫氏、故佐藤陽祐氏への功績を上げ、感謝の意を込めて黙祷が捧げられた。

また、「広島大会」の成果とおもてなしの心に触れ感謝の気持ちも伝えられた。さらに、第26回大会に続き「第54回山口大会」の成功を祈っていることにも触れ、新たな百周年に向けてスタートしたことと、顧問参与全国理事の皆様と事務局員のご労苦に謝意を示し、今後もご支援ご協力をと述べた。

その後は、『理事会資料』をもとに報告と審議が行われた。

令和5年度の会務報告、決算報告と議事が進み、会計監査報告が承認された。役員選考委員長からの報告により、内定した会長・副会長等について、承認された。

会長には長沼正城副会長、以下副会長、事務局長、会計部長、会計監査役が承認された。新会長となった長沼正城氏からは、全小国研の発展を期して力を尽くしたいとの決意が披露された。また新役員の自己紹介と続いた。

その後、新会長から『会則』の内規に従い、加賀田真理氏、城戸祥次氏を顧問に推挙し、紹介された。また会長を退任した佐伯孝司氏は、相談役として引き続き本部役員を支える立場となった。

その後は、令和6年度の活動計画と予算案が承認され、夏季実践交流セミナーの概要説明。続いて、研究会賞や教員表彰の説明。また、

また副会長の間恵満貴理事から山口大会についての説明と周知があった。その後会長から、今後の全国大会開催地について報告があり、続いて全国小学校国語研究所事務局長阿部澄子氏より今年度の活動計画・研究発表会の開催について報告があった。その他、田中副会長からホームページの運用への協力依頼があった。



新会長「長沼正城」氏の挨拶



新役員の紹介場面

最後に、情報交換として全国の活動の様子などについて各理事や顧問からさまざまな話題をご提供いただいた。

広島から来られた顧問の岩本和貴氏から、昨年度の大会開催後の研究について「研究推進計画資料」をもとに以下のような話があった。

●「これからの国語科教育に求められるもの」として、中央教育審議会答申（令和5年3月8日付）次期教育振興基本計画での示唆に触れた部分である。「VUCA」、DX、Well-being、「DEI」「SDGs」

について。●「多様性」「誰一人取り残さない」～共生社会の実現。このような考え方にに基づき、国語科で求められる学習指導内容についての提案。●特にこれからの社会において、主体性・リーダーシップ・想像力・課題設定・解決能力・論理的思考力・表現力・チームワーク等の資質能力を備えた人材が求められる。●このような課題を踏まえ、令和6年度以降は、「学びの価値と学ぶ幸福を実感できる子どもを育む国語科教育の創造」の主題設定の下、目指す子ども像について、3つの目標を掲げて取り組んでいく。

- 主体的に学習課題に取り組み、見通しを持って学び、解決する力を高める子ども
- 論理的思考力や創造力を高め、自分の学びを振り返ってスパイラルに学ぶ子ども
- 学んだことに達成感・幸福感をもち、自分の学びの価値を実感して、次の学びへの意欲をもつ子ども

●「自ら課題を発見し、自分ごととして捉えて解決する」能力や姿勢が問われているとの説明であった。

次に、第54回山口大会について、大会実行委員長の間恵満貴氏より説明があった。大会主題「小・中・高を貫く言葉の学び～国語科における『深い学び』とは何か～」と設定し、研究授業や実践発表を通しての『深い学び』小・中・高教員が合同で研修を行い、国語教育の系統性意識と研修の交流を通じた流れを説明。文部科学省教科調査官大塚健太郎氏の講演、特別ゲストとして作家の重松清氏の講演も予定されている。



顧問・全国理事の皆様

最後に、閉会の言葉を副会長の川辺章絵が述べ、終了となった。

理事会終了後には、隣室において、「懇親会」が催された。

顧問を代表して榊原良子名誉顧問からの言葉があった。(欠席のためメッセージを田中副会長が代読)
 ・前会長の佐伯孝司氏の5年間の功績、特に「新型コロナウイルス」対応や、「全小国研 創立50周年の式典並びに関係事業」を細心の配慮の基に、固い信念と周りを温かく包み込む人柄、そして、緻密な計画の基で自ら汗を流して大成功の裡に開催できたと称賛。また新会長の長沼正城氏について、誠実で周りの人の気持ちに寄り添いながらことを進めていかれる方と紹介。今年度は、新会長をはじめ事務局の皆が一丸となって全小国研の発展させていくことに期待を寄せた。



にぎやかに対話の花が咲く懇親会

・会長挨拶は、思いを短歌に託して挨拶とした。

「全国の同志をつなぐ大会の 今年も全力 広島から山口へ」
 「懐かしのあの顔この顔この一瞬 次に会う日も笑顔の握手を」

・最後に閉会の言葉。副会長の田中順子氏は、「本日はたくさんの方々のお話を拝聴し、花を咲かせるために、種を植え一生懸命水やりをする国語教育の先生方の思いと、それが子供たちの心の土台となっていく素敵な会だと実感しました。」と述べ、御参会くださった皆様への感謝を込めて、一本締めにて和やかに開きとなった。

(資料提供 顧問 向田宏男先生)

【耳より話・感謝】

○山形の顧問 向田宏男先生より。「毎年、この時期はサクランボの時節と重なる。全国の理事・顧問・役員・事務局員のご苦勞ぶりに感謝して山形県産サクランボをお土産として持参した。今年は例年よりも1週間から10日ほど早い収穫時期を迎えた。例年よりも収穫量が少なめだが、糖度は高く味覚については申し分のない出来栄だと生産者。東京へのお土産には、まさにピッタリのタイミングで皆様にささやかながらサクランボを味わっていただけたことを嬉しく思う。」

(向田先生、今年もおいしいサクランボをご馳走さまでした。)

○広島の顧問 岩本和貴先生より。昨年度広島大会が大きな成果を収めたことへの感謝の意を表し、地元名産のお菓子を頂戴した。(お心遣いに感謝申し上げます。)



つややかな さくらんぼ